



## 田植後1ヵ月後を目安に中干し溝切を行います。

土壌に酸素を供給し、根を活性化させます。また、過剰な分けつを抑制することにより風通しを良くし、光が株元に届きやすくします。また、モミ数が制限されることから、粒厚が厚く整粒歩合の高いお米ができます。軽く足跡がつく程度で、約2週間程度の中干しを心掛けてください。

### 中干し時期の莖数(コシヒカリの目安)

栽植密度(／坪)	50株	60株	70株
1株当たりの莖数	20本	17本	14本

中干しの程度

**注意**

軽く足跡がつく程度



半湿田には足がしむ程度 4~5日間隔



乾田では弱いヒビが入っている 2~3日間隔

- ✓ 溝切りを行うことで、入水・落水がスムーズ(効率的な水利用)に行え、胴割米の防止と粒厚の向上につながります。
- ✓ 確実な溝切りにより、地耐力が増し落水時期を遅らせることができるので、今後のカドミウムの吸収抑制(湛水管理技術)に効果があります。
- ✓ 10aあたり1本以上の溝切りを原則実施し、溝は尻水戸までしっかりつなぐようにしましょう!



営農指導活動

**pick up 小麦“びわほなみ” 現地研修会の開催(4/13)**

小麦の現地研修会を企画し、関係機関と生産者さんとが日頃の栽培に係る疑問・課題を共有しました。また、生産者さん同士の情報交換ができる良い機会となりました。

管内の小麦では、従来品種の農林61号から製麺適性に優れ高品質で多収が期待される「びわほなみ」を今年産より全面品種転換を行っています。しかしながら、まだまだ地域にあった栽培技術に課題がありますが、品種特性を発揮できるよう、地域に見合った栽培技術の確立を目指し、営農指導をしています。



営農企画課 営農担当兼渉外 山崎健太

## 水稻カドミウムリスク対策情報 「湛水管理」に向け、適期作業を!!

出穂前後各3週間の時期になると湛水管理作業が始まります。

**湛水管理は、玄米中カドミウムの吸収を抑制するための重要な技術です。**

**中干し作業は、地耐力を向上させる唯一の手段です!**

植付約1ヵ月後2週間程度の中干しを徹底しましょう。

今後、水管理・湛水管理がスムーズとなるよう作業の実施をお願いします。

適期中干し・溝切り



JALレーク伊吹 農産物安全対策協議会